

# 各論点に関するご意見一覧

## 【資料1に関して】

Q1. 「“稼げるまち（＝経済成長）”の実現」のため、何を重点的に取り組むべきでしょうか。

### 【壹岐尾 恵美 構成員】

- 地の利を生かした観光客（特にインバウンド）の確保
- 北九州市の自然観光とその他歴史建造物など施設の見直しとそれらの回遊性を高める
- 観光都市としてクリエイティブな視点で本物の専門家を起用する
- 今現在は市民サービスと捉えられている各施設を観光都市として稼ぐために金額の柔軟性をはかる  
条例で決まっている設定の見直しなどインバウンド積極的受け入れ  
(事例) 昨年度小倉城20万人 1/3がインバウンド
- 北九州市民には市民サービスとして別枠で金額設定を試みる  
市民パスポートなどの発行でお得感を感じてもらう
- 滞在時間を長くしてもらうための取り組み  
ホテルの誘致、空き屋や空きビルを活用(デザイン)しての宿やホテル事業  
過疎化地域の空き家活用で過疎地区のホテル化
- 土地の優位性（災害の少なさ）をブランド化し  
企業の誘致と移住者の確保

### 【池尻 和佳子 構成員】

- 商店街活性化→若い世代取り込む工夫
- 高齢者も働き続けられる環境整備
- インバウンド向けコンテンツを増やす（夜も動いてお金を使いたくなる工夫）
- 交通アクセスの充実と多言語対応

### 【石田 真一 構成員】

- 成長ではなく繁栄を目指していきたい。エネルギー・食糧・人的資源・資本などの資源を地域内で循環させることで持続可能な街を形成するとともに、環境先進都市を体現する美しく自然環境豊かな街づくりを通じ、人が集まり繁栄する都市を目指していく。

### 【内田 晃 構成員】

- 北九州市に企業が進出するためには「都市のイメージ」や「都市のブランド力」が重要。そのためには暴力団のイメージの払拭、災害に強く安全で安心して暮らせる条件が整っていることを積極的にアピールする事が大事。また、都心に賑わいや活気が溢れていることも都市のイメージを高めてくれるのではないかと。
- 加えて「都市の包容力」のような視点も重要。この街は色々なチャレンジができる、若者が起業しやすい条件が整っている、という素地があれば、おのずと元気な企業が集まってくるのではないかと。

### 【津田 純嗣 構成員】

- 地元企業の「稼げる力のレベルアップ」、「スタートアップ」「リスキリング」の支援はやらないといけないし、既に進行中であると理解している。
- 稼げるまちを考える場合には、量と質から考える必要がある。

### 【寺山 大右 構成員】

- 鉄鋼、セメント、各種化学製品を製造する産業が集積している特性を生かした産業育成または企業誘致が考えられるのではないかと。例えば、5G などを用いつつ、製造工程や工場機器類の監視などを自動化する DX などは、製造業における生産性向上や省力化に資するため、そうした DX などの産業育成や企業誘致は北九州経済全体にとって有益ではないかと。

### 【永田 昌子 構成員】

- 重点施策を選ぶという点に賛成する。キーワードで出された“中途半端な経済圏”であることの危機感を持ち、総花的でない施策が必要と考える。キーワードの“福岡市との連携”を図り、差別化するために、スタートアップのうち、製造業、例えばロボットを活用した製造業などに絞ってはどうか。「世界で一番ロボットと共生している町」などを目指してはどうか。
- 市民の安全・安心な暮らしの確保のキーワードに“健康経営”は挙がっている。健康経営は企業の成長や発展のために、従業員の健康に投資するものであり、担当している省は経済産業省である。ぜひ「稼げるまちの実現」のキーワードにも挙げていただきたい。健康経営優良法人認定された企業は67社0.24%程度であり、他都市と比べて大幅に低くはなかった。入札要件に健康経営の取組を入れている青森県0.31%よりは、わずかに低いようである。

### 【平山 由夏 構成員】

- クリエイティブな人材が集まるためのまちづくり。
- 都市の魅力を再構築する（ローカルフード、海山川の自然、祭や文化、人、古い建物）
- ローカルのスモールビジネスからスタートアップまで、多様なスタイルが魅力をつくる。新たなビジネスへの後方支援

### 【松永 裕己 構成員】

#### 【短期的な取り組み】

- 個別企業の支援ではなく、サプライチェーン（視点）の支援。
- 上記とも関わるが、マーケティングや経営戦略に関する支援（技術支援のメニューは比較的豊富だが、マーケティングなどの支援は不足しているのでは？）

#### 【中長期的な取り組み】

- クリエイティブクラスの誘致、育成。リチャード・フロリダは都市成長の源泉は、クリエイティブクラス（価値を創造する人）の集積だと指摘し、そのためには3つのT（Technology、Talent、Tolerance）が必要だと言っている。3つのTを揃えクリエイティブクラスの集積を図ることが重要。
- オーナーシップの涵養。従業員の（場合によっては経営幹部も）オーナーシップ教育が重要。上層部の指示待ち、親会社の指示待ちが多く、主体的な動きがないような状況では、企業や組織の成長は難しい。

### 【松永 守央 構成員】

- 人材不足、働き手不足の中での、AI 導入、DX 推進等（個人のリスキリング含む）による業務効率化・生産性の向上と、給与水準の向上（全産業が対象であり、企業に考えてもらわねばならない）

### 【松本 真理子 構成員】

- 世界に対して勝負できる産業・企業の誘致

### 【三谷 康範 構成員】

- 他の都市にはない規制緩和特区環境の中で新しい技術を試してみることができ、それによって新しい世界を現実社会で実感できる環境を実現する。  
このようにして、スタートアップが独自技術の実証を試みたくするような環境と仕組みを作る

### 【宮坂 春花 構成員】

- IT 企業誘致、ベンチャー企業の創出、サービス業の誘致
- 北九州が強い業界と新しい業界、職業を掛け合わせた企画やクリエイティブを生み出す
- スタートアップ企業の創出支援（起業家・アントレプレナーの育成）
- 学生、20代社会人、女性向けのビジコンの開催、コミュニティ育成

### 【柳井 雅人 構成員】

- エリアを絞った情報系産業・企業の集積と情報人材の供給
- スタートアップの促進
- 不足している産業用地の供給
- エネルギーの地産地消と企業誘致
- 介護、福祉、教育、医療、看護等の給与水準の改善策

Q2. 「“ハイクオリティ” な都市づくり」の実現のため、何を重点的に取り組むべきでしょうか。

**【壹岐尾 恵美 構成員】**

- 教育 全ての子どもに平等に学びを与えられる環境づくりをするために、まずは大人（経済活動に貢献できる働く世代）がリスキリングできる、学べる都市を本気で目指す
  - ・自身と次世代の子どもの為に大人が稼げる学びをできる環境
  - ・能力があがると収入があがることを意識した取り組みにする
  - ・産業界と大学（教育界）がセットで取り組むシステム
- 変化することを恐れない街 変化を受容できる環境
  - ・特別感、一流の観光都市への成長
  - ・稼ぐ環境都市へブラッシュアップする
  - ・それらに携わる優れた人財の育成

**【池尻 和佳子 構成員】**

- 駅と一体的な街づくり
- ICTベンチャー企業等誘致→ICT人材の育成
- リノベーションによる空き店舗、古民家などの活用
- 起業家への支援

**【石田 真一 構成員】**

- 小さな都市づくりを可能にする開発可能区域（商業施設や住宅）の設定（人口減少・少子高齢化による税収低下、一人当りのインフラ維持費の上昇を想定）

**【内田 晃 構成員】**

- 教育環境は重要。幼稚園から大学まで、多様な選択肢があることが都市の強みになるのではないかと。今度小中一貫校の私学が開学するが、北九州市にこれまでなかったような学校を誘致する。例えば英語教育を行うインターナショナルスクールや海外大学の日本校のようなものなど。
- 前回検討会議でも提起した都心のウォークアビリティを高めていくことは最重要課題。小倉の中心市街地はその条件が整っている。歴史的な市場や庶民的な角打ちがあり、紫川沿いの豊かな都市空間も存在する。さらにそこにアクセスする公共交通も充実している。姫路駅でやっているような駅前広場からの自家用車締め出し、平和通りやちゅうぎん通りのモール化など大胆な施策を展開して欲しいと思う。

### 【津田 純嗣 構成員】

- コンパクトシティ化というこれまで進めてきたことを徹底強化する方向だと考える。
- 小倉、黒崎、折尾を重点投資し、北九州市の街の顔の整備をきちっとする。
- （長期的ではあるが）海を生かしたまちづくり。日本の中でこれほど海岸線が長い大都市はない。
- 一番重要なものは「教育」である。市外から人を呼び込もうとすると、考えるのは子どもの教育環境である。魅力ある学校ができるかを必死に考えなければならない。
- この街はJRで南北が分断されている、これを長い目で考えていかないといけない。

### 【寺山 大右 構成員】

- 観光業や文化事業もしくは生活・教育環境は、行政機関と連携しつつ、民間事業者が主体的に活躍しうる分野なので、そうした民間事業者が主体的に活躍しやすい環境整備が必要ではないか。

### 【永田 昌子 構成員】

- “ウォーカーブル”なまちづくりに賛成する。北九州市民として暮らしにほとんど不満はないが、歩いていても、車を運転していても、広告は統一感がなく、景観が良くない。歩きやすい、人が集まりやすい場があるとよいのではないか。（旭川 Harete など）
- 北九州市内での消費が活性化することで、商店が存続し、町が賑わい、市内企業の利益やひいては市税収入につながると考える。Paycha（プレミアム商品券）は、オンラインショップで買わずに近くの店で買う理由となった。プレミアムがわずかであっても、市内で消費するメリットを感じられる仕組みがあるとよいのではないか。北九州は“GoGo あるくっちゃアプリ”でポイントを集めると景品に応募できるなどの健康増進を促す仕組みが既にある。Paycha と連動してポイントが貯まり、市内で消費に使えるなど連携すれば、行政側が市民に行動してほしい事柄（例えばボランティアなど）を誘導しやすくする仕組みができるのではないか。

### 【平山 由夏 構成員】

- 若くて、高所得で才能のある人たちのライフスタイルをイメージしたまちのデザイン（ランニング、ウォーキング、趣味、仕事）
- エリアごとの特徴を新しい価値観で捉える。エリアごとのプロデュース、ブランディング

## 【松永 裕己 構成員】

### 【前提】

- まず成長の「果実で」質の高いサービスを提供するという設定が違っている気がする。質の高いサービス自体を成長の源泉として設定すべきではないか。

### 【重点分野】

- 教育の拡充（質と多様性の強化）とそのための指標開発。Q1 で書いたクリエイティブクラスの誘致や育成において、教育は最重要。また指標については、たとえば子育てしやすい街として「1人あたりの〇〇」という指標が用いられるが、これは分母（人口や子どもの数）が減少すれば自動的に上がっていく数字であって、どれくらい実態や市民の実感を反映しているのかという問題がある（外向けのPRとしてはいいと思うが）。

## 【松永 守央 構成員】

- 人材育成については、今までにないレベルでの教育が必要（DX）。年間 20,000 人程度を輩出するようなレベル。本当は北九州市の人口の 10%程度輩出しなければ、欧米のレベルには追いつかないのではないか。
- リスキリングについては、今ある仕事の5割、特に事務職については100分の1にまでなるとも言われている中で、これまでの資質や技術の延長ではなく、全く異なったものを習得しなければならない。そうでなければ企業の成長はない（日本は欧米のレベルからかなり遅れている）。
- 国内でそういった人材が集まれば、自然と企業が集まってくる。そうなってくればインフラに投資もでき、規制緩和で高層ビルに集積してもらい、それによって余った土地を活用するという循環ができるのではないか。

## 【松本 真理子 構成員】

- 電気自動車の推進・自動運転レベル4の推進・シェアライドを組み合わせて高齢者・過疎地域の移動支援

## 【三谷 康範 構成員】

- 北九州は都市の成り立ちが5市対等合併であり、必然的に面的に広がった都市構造であるので、交通インフラをどう便利に経済的に実現するかの観点は重要。JRの区間快速に見られるように北九州市内ではほとんどの駅に停車することからも分散型であることは明らか。元々の構造がコンパクトシティではない。ライドシェアや自動運転の積極導入、もっと先を見通すと空飛ぶ車の導入などは必要なインフラと考える。

## 【宮坂 春花 構成員】

- 観光において星野リゾートのような行きたくなるハイクラス向けの宿泊施設  
→ 皿倉山の夜景日本一なのに近くの宿泊施設が少ない（泊まりたくなる宿泊施設）
- 環境都市は天皇陛下も来られたことがあるくらい環境に特化した施設一体なので、そのエリアをエンターテインメント性を持たせた観光施設にする

**【柳井 雅人 構成員】**

- エネルギーの地産地消による生活費の削減
- コンパクトシティー化の推進による財源の確保
- 海岸部の再開発とアクセス改善
- クリエイティブ・クラスの外国人居住推進
- 高級宿泊施設の誘致と観光開発

Q3. 「市民の“安全・安心”な暮らしの確保」の実現のため、何を重点的に取り組むべきでしょうか。

**【壹岐尾 恵美 構成員】**

- 観光客が増えるとき起きる問題の解決を真摯に取り組む
- クリーンな街のイメージを維持する  
小倉駅の客引きや良いイメージの無いモノ、コトへの本気の取り組み
- 街の自治力を上げる

**【池尻 和佳子 構成員】**

- 公園整備（市民・観光客のたまり場作り）
- グリーンスローモビリティ導入
- AI等を活用した災害時の情報発信システム構築

**【石田 真一 構成員】**

- 多様多様なコミュニティの形成に資する公共サービスとリソースの提供、並びに共助を促すフレームワークの構築

**【伊藤 直子 構成員】**

- 市民の安全・安心な暮らしの確保をする先には、市民が幸福と感じられることだと考える。

より質の高い健康や幸福を追求する「ウェルビーイング」という言葉が使われるが、これは、WHOの健康の定義である「身体的、精神的および社会的によりよい状態」を指す。

北九州市に住むだけで、「幸せの因子が満たされていくまちづくり」「市民が幸福になるウェルビーイングなまちづくり」ということだが、これらが成立するためには、「生涯を通して自己実現が可能な社会」「人とつながれる社会」「前向きな楽観性を受け入れる社会」「様々な多様性を受け入れる社会」の要素を検討することが必要となると考えられる。

参考資料：<https://digital-is-green.jp/initiative/advisor/maeno/>

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital\\_denen/dai7/shiryoushou5-3.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/dai7/shiryoushou5-3.pdf)

**【内田 晃 構成員】**

- 最近街の中で（住んでいる）外国人をよく見るようになった。留学生や技能実習生か。彼らが住みやすいと思う環境づくりは重要。今後もよりグローバル化が進展していく中で、外国人にとって安全・安心な居住環境は都市を選択する上で上位の条件になっているものと思われる。多くの外国人が利用している自転車の走行環境を高めていくための専用レーンの設置や街なかへの駐輪場の整備なども重要課題だと思う。



### 【津田 純嗣 構成員】

- 今でも皆が良いと言っていただけの街であるので、PRにもっと力を入れるべき。

### 【寺山 大右 構成員】

- 安全・安心を支えるためには、行政機関が提供するサービスが不可欠であるほか、地域活動等を通じた連帯も重要な分野である。
- こうした中、将来的に行政機関のサービスや地域活動等をサステイナブルに行うためには、一定程度の人口密度が必要である。したがって、人口が相応の規模ある現時点から、各地域における文化や地域活動を維持していく視点も踏まえつつ、都市計画として、コンパクトシティを目指していく必要はあるのではないかと。
- なお、その際には、減災を通じた安全なまちづくりという観点も必要だろう。

### 【永田 昌子 構成員】

- 健康寿命は国民生活基礎調査の「あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響はありますか」との問いに「ある」という回答を不健康として、算出する方法である。

現在の算出方法の課題を補完する方法として、要介護 2 以上を不健康として定義することが提案されている。参照「健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書(2019.3)」下記データより、北九州市の健康寿命の副指標は全国平均と比べて良くないと推定される。

健康寿命延伸の施策は今後も必要と考えられ、そのために健康行動を促すプラットフォームづくりに重点を置くべきと考える。例えば、ウォーキングアプリのダウンロード目標 市民 50%など 重点的に取り組んではどうか。それを達成するとそのプラットフォームからがん検診や特定健康診査の受診を促すなどが効率的、効果的になるのではないかと。

	要支援率	要介護率
65-74 (北九州市) R3	1.88	3.69
65-74 (全国) R2	1.4	3.0
75歳以上 (北九州市) R3	10.3	27.5
75歳以上 (全国) R2	8.9	23.4

### 【平山 由夏 構成員】

- 子供たちが幸せを感じられる(満たされた)環境や生活について考える
- 障害があっても人生を豊かに楽しむことができる、まちでありたい。そのためにも、日頃から向き合い、考える機会が必要。
- 海外に比べて車いすで外出している人は少ないように感じる。

### 【松永 裕己 構成員】

- テーマ型コミュニティの強化(NPO活動等)。これまで安全安心な暮らしを支えてきたコミュニティ(地縁や家族)と行政に頼ることは限界を迎えており、テーマ別分野別の市民活動を強化していくことが必要だと思う。

### 【松永 守央 構成員】

- 前回は発言したとおり、災害に対する強さは強み。
- 崖が多いことは事実としてあり、やはり、（今永元副市長もいっていたが）都市部の集合住宅に集まってもらい、リスクを減らす。
- 市内は山間部が多い一方で、若松の市街地は空き家が多くあり、このような土地を活用するなど、コンパクトシティを目指すことはやるべき。ゾーニングは重要。
- どの項目にも共通するが「今までの延長線上」ではなく「考え方を変えないと」安全・安心は守られない。

### 【松本 真理子 構成員】

- 前回提案済 子どもの幸福度ナンバー1の街
  - ・ 制約なく遊べるプレイパークの設置
  - ・ 不登校児童生徒の居場所づくり・フリースクールへの助成
  - ・ 教育の多様化支援
  - ・ 相対的貧困状態にある子どもへの支援（フードバンク・モノバンク・クラウドファンディングなど民主的な互恵的仕組みづくり）
  - ・ ヤングケアラーの把握と支援の仕組みづくり
- 前回提案済 子育て世代への支援
  - ・ アプリによる支援ニーズのマッチング；人の役に立ちたい中高齢世代の活用
- ウェルビーイングに取り組む街

### 【三谷 康範 構成員】

- 元来の特性である災害が少ない都市のメリットは活かさねばならないが、これだけで人を呼び込むのは難しい。何か特徴あるモノやコトと結びつけたい。

### 【宮坂 春花 構成員】

- 「ミライトーク」のような市民と話せる機会・市民からの意見の徴収
- 企業の心理的安全性への取り組みの促進

### 【柳井 雅人 構成員】

- ダイバーシティの推進
- 公共施設の集約化とアクセスの改善
- インフラの計画的修繕

Q4. どのような分野において、北九州市は日本全体やアジアに対して「社会課題の解決」の道筋を示していける（貢献していける）と思いますか。

**【壹岐尾 恵美 構成員】**

- 独自の施策を生み出し、活用し、自分たちで変化した都市の事例になる  
観光はゼロから作る感覚  
産業はイノベティブとセット
- ビジョンが確定した後は実務家たちの本気の会議  
本物の実務家たち（戦略を組めるプレイヤー）を招集する力がある都市  
人財の揃う都市  
絵に描いた餅にならないよう実務会議に予算と時間をかける価値ある取り組み  
実装させるためリアルに変化させるためのチーム作りの最高な都市事例となる

**【池尻 和佳子 構成員】**

- グリーンツーリズム、エコツーリズムの提案  
→（北九州全体の回遊性を創出）
- 高齢者が生きがいを持てる街としての発信
- 子供を産み、育てたくなる街 PR

**【石田 真一 構成員】**

- テクノロジー（AI、IoT等）を最大限に活用し、自立分散型エネルギーシステムや地産地消を通じた地域循環共生圏を実現することで、持続可能な都市モデルを示していく

**【内田 晃 構成員】**

- 環境やものづくりは言うまでもない。当然やるべき分野だと思う。
- 公共交通利用促進の分野で是非リードしてもらいたい。ルクセンブルクが国をあげてやっているように、「北九州市民は公共交通すべて無料！」くらいの大胆な政策を検討して欲しい。財源の問題で一蹴されるかもしれない。でも企業にとっては通勤手当を出費しなくていいので大きなコストカットにつながり企業活動の活発化や進出企業の増加にもつながるかもしれない。市民がどう動いているかのビックデータが取れるのでそれを販売する事で少しでも財源が確保できるのではないか。

**【津田 純嗣 構成員】**

- あまり肩ひじ張って取り組む必要はない。自分たちが住みやすい良い街というのを徹底的に追及して作っていくことで必然的にその方向に行く。あえてアジアに向けて良い恰好する必要はない。日本全体に対しても同じ。

### 【寺山 大右 構成員】

- 人口の減少・高齢化または産業構造の変化のなかで、経済活動および社会基盤の維持を如何に図るか、行政、市民、企業が上手く連携して対応していくこと、そうした取組みと成果は、他の地域に示せる道筋になるのではないか。

### 【永田 昌子 構成員】

- “少子高齢化でも活力がある” 町の実現

また、キーワードに“高度な外国人材の取り込み”について東南アジアの高度な外国人材の取り込みを期待したい。アジアの現在の課題の多くは北九州市（日本）が乗り越えてきた課題であり、少子高齢化は将来のアジアの課題であることを踏まえ、高度な外国人材を受け入れることが、アジアの活力を取り込む交流につながるのではないか。

産業医大もアジアの極めて優秀なエリートが在籍し、また短期の研修希望があり、受け入れを実施している。母国では極めて優秀なエリートであり、様々なレベルの交流につながることを期待している。

### 【平山 由夏 構成員】

- 自転車を移動手段にする自転車のまち。
- 市街地の緑化

### 【松永 裕己 構成員】

#### 【重点分野】

- 環境
- 福祉

### 【松永 守央 構成員】

- 例えばロンドンではキャッシュレス社会で地下鉄はクレジットカードで乗れる。商店街もキャッシュであればお釣りは払わないなど。無論リスクも沢山あるが、進むべき方向性は明確である。特にサービス業。JR 九州はクレジットカードでの乗降は早かった。デジタルなまちづくり、そういったことができればよい。

### 【松本 真理子 構成員】

- IT・ロボット技術
- 環境
- 医療（高度医療技術を受けに国内外の人が集まる街）
- 教育（国内の教育に関心の高い層やアジアの富裕層が教育移住できるように、特色のある学校の整備、日本型インクルーシブ教育の高付加価値化、教育移住の支援）

### 【三谷 康範 構成員】

- 超高齢者社会にあり方を示すチャンス。DX化の推進と規制緩和は不可欠の要素(日本の規制の中でそれに合わせて無理して作ったシステムでは世界に売れない)。若者(大学生や高専生などが対象)の発想を活用できる環境整備。リカレントで学んだ女性や高齢者が活躍できる環境整備で先進モデルを構築する

### 【宮坂 春花 構成員】

- 外国人雇用の創出
- 福岡市に比べ、外国人材が住みやすい街にもなっていると思う。
- 韓国のスタートアップとの交流(場所も近いし、スタートアップ都市として韓国が伸びてきているから)
- 学生がアジアに飛び出す機会・挑戦の場の創出
- 海外出展のある企業へのインターンシップなど

### 【柳井 雅人 構成員】

- 人口減少対策のモデル化と海外への普及
- 生産性の向上策のモデル化と海外への普及

Q5. Q1～4の論点、また、北九州市の課題やポテンシャルを踏まえて、2040年を目途にどのような街を目指していくべきでしょうか。

**【壹岐尾 恵美 構成員】**

- 地の利を生かす、福岡市との連携  
福岡空港から北九州への誘導の計画
- 既に在る自然環境、歴史的建造物といった資産の活用
- 都市の再設計  
観光都市としての再設計（ハード面・ソフト面）  
外から来る人の為の都市計画  
ホテルの誘致、空き家のホテル化、インフラ投資
- AIの活用  
新たなおもてなしの形を北九州が取り組む  
AIできめ細やかなサービスの向上を図る  
人は人しかできないことに集中して取り組み  
さらなるおもてなしを目指す  
デジタル時代のおもてなしの最先端事例を作る
- 本物の専門家の起用

**【池尻 和佳子 構成員】**

- 「人が育まれる街」
- 「賑わいを生む街」
- 「子供も大人も居場所がある街」
- 「安全で快適な街」

**【石田 真一 構成員】**

- 様々な背景や考えを持つ市民すべてが自分の尊厳を保ち、やりたいことややりたいものを選べる機会が提供される街。また、市民すべてが、他者や社会とのつながりを感じると共に自分の属するコミュニティを持ち、地域内の限られた資源のなかで幸福に暮らすことができる街。

**【内田 晃 構成員】**

- 車に過度に依存しない、ウォーカブルで公共交通が充実した街。街中には人が溢れ、活気のある拠点がネットワーク化されて機能している。

**【津田 純嗣 構成員】**

- （20年では、そう簡単には変わらないが、）住みやすい街の追及であると考える。
- ビジョンの方向に向かっていることをしっかり見せれるように進めるしかない。

### 【寺山 大右 構成員】

- まず、製造業の街として、世界的な大企業から中小企業まで様々な企業が、さまざまに連携して生産性の高く活動できる街を目指す必要がある。北九州において、エコシステムとして、企業活動をサポートする仕組みをビルトインしていくことが必要である。この点、例えば、グローバルな市場を相手にしている企業であっても、そこで働く従業員はローカルな存在であるため、従業員に質の高い教育や住宅環境を提供できる学校や企業などが北九州にあることは、グローバル企業にとってもメリットのあることである。

### 【永田 昌子 構成員】

- 少子高齢化でも活力がある住みやすい街
- ベッドタウンとして、また観光の受け入れとして福岡市等と連携してほしい。

### 【平山 由夏 構成員】

- 古き良きものを活用して新しいスタイルへ
- 市民の意識を目覚めさせ、新しい価値観を共有できるリーダーシップ

### 【松永 裕己 構成員】

- コンパクトシティ
- 量的拡大ではなく質的向上を目指す
- 人口減少を前提としたまちづくり

### 【松永 守央 構成員】

- ポテンシャルを生かし、他との差別化を図るには、物流+人流の拠点
- 物流については、コンテナのバーコード化に留まるなど、いまだ DX 化のレベルにはいきついていない。例えば、迅速なコンテナの積み替えや最低燃費でのコンテナ船の運航に AI を導入するなどが必要。
- 人の動きも同様。JR も DX 化できていない。
- 日本の弱点は、成田ー羽田の航空拠点が満杯の状況で、第3、第4の拠点が必要。そこで、福岡空港と北九州空港の連動は、人の動きという面でやはり鍵。
- 福岡空港の滑走路増設などは、限界があるが、北九州空港については、3,000m化を手始めに、風の影響を少なくするために第2滑走路は斜めにするなどが考えられるのではないか。
- 連動に当たっては、軌道系の敷設等インフラが大事。例として仙台空港は地震にあったものの、鉄道が乗り入れたことにより、レベルが変わった。
- 例えば（八田 AGI 理事長が言うように）、朽網ー苅田の間に新駅をつくれればかなり違ってくるのではないかと。特急を使えば福岡もそう遠くはない。
- 要は、東京圏以外の人々の移動の拠点を造ること。

**【松本 真理子 構成員】**

- 今の小・中・高校生が「北九州市で育って楽しかった」と思えるような「子ども幸福度ナンバー1」の社会をつくるのが、今後もこの街に住み続け子育てをしたいと考える層を創る。
- インクルージョン、グローバル教育など先進的な教育にチャレンジする街。

**【三谷 康範 構成員】**

- これまでの既成概念（成功モデル）は一旦脇に置いて（北九州市は成熟した産業都市であるがゆえに、そこでの各種ルールや思いが無意識のバリアになっているのではとの前提）、新しい発想を持ち込んだワクワクするような環境づくり。しがらみをどこまで克服できるか。

**【宮坂 春花 構成員】**

- 起業家（フリーランス）が日本一生まれるまち
- アジアとの国際交流が豊かなまち

**【柳井 雅人 構成員】**

- モノづくり、情報・サービス活動のバランスがとれ、若者が定着する、活力ある街



## 【資料2に関して】

Q6. 街の活力を向上していくためには、

- ・ 20～30歳代の若い世代の転出超過
- ・ 求人と求職のミスマッチ
- ・ 女性の年齢階級別労働力率のM字カーブ
- ・ 女性の離職

などが市としても課題と捉えています。

そこで、若者や女性が市内に定着し、活躍していくためには、何を重点的に取り組むべきでしょうか。

### 【壹岐尾 恵美 構成員】

- 仕事があるかどうか重要課題  
楽しく続けられる仕事を北九州で作ること
- 学んでいく環境

### 【池尻 和佳子 構成員】

- 働きがいのある企業を増やしていく必要がある。
- 街全体で子供を育てていくような環境作り、安全な公園整備など。
- フルタイム共働き世代の保育ニーズに応える環境。
- 若者文化と地域の魅力が発信できるような拠点作り。

### 【石田 真一 構成員】

- 課税システムの見直し（魅力ある街づくりへの投資促進、対象企業の誘致、女性の活用に関するインセンティブ付与）

### 【津田 純嗣 構成員】

- 結局は（求人と求職の）アンマッチである。働くところがない。
- 不足する部分としては、市外流出を防ぐことと、外国人人材をどう活用するかということ。
- 女性の労働力率の部分において、中小企業は対応を苦慮しているが、大企業は休業や評価の仕組みを作っている。また、本人自身が家に居たいということも考えられる。

### 【寺山 大右 構成員】

- 人口減少に伴う人手不足は、全国的な現象である中、若い世代の誘致は、北九州にある企業全体の問題でもある。そうした中、人手不足に対して、企業間で連携して対応を検討していくことも考えられる。この点、育児世代における短時間勤務や在宅勤務の推進を企業間で連携して対応できれば、女性の離職を防げるのではないかという印象がある。例えば、短時間勤務をサポートするために、DXの推進や各種マニュアルなどの整備などを企業間で共同で行うといったことが考えられる。また、そうしたサポートを行う企業を複数の企業間で利用すれば費用も低廉でできると思う。また、交代勤務制をとっている企業についても、交代勤務を技術革新により減らすことができるのであれば、それだけで、女性や若者の就労意欲を上昇させることができるので、製造業が多い北九州において、そうした取組みが広がれば、若者を惹き付けるとともに、女性の就労率が向上すると思う。
- いずれにしても、北九州が今もつレガシーをうまく活用していくことが、地道だが、もっとも効果の高い方策ではないか。

### 【永田 昌子 構成員】

- 魅力ある企業の誘致と周辺地域（特に福岡市）に通勤通学しやすさを改善し、子育て環境など住みやすさをアピールしてはどうか。  
例えば折尾→博多 JR（特急）に要する時間は昼間 30 分であるが、通勤通学時間帯は 45 分以上要する。

### 【平山 由夏 構成員】

- Q6 については課題となる理由がよく分かりませんでした。議論して理解を深める機会が必要だと思います。

### 【松永 裕己 構成員】

- 企業の採用力、人材マネジメント力の強化。市内企業の採用セミナーや求人活動は一生懸命されているが、内容や見せ方が学生や女性の視点とずれていることが多く観られる。端的に言うと採用力が低く、せっかくのチャンスを逃していることがある。その部分を強化する必要があるように思う。また、人材マネジメントについても同じことが指摘され、世代間ギャップや新たな働き方への対応がなされておらず、それが離職の原因になっていることも多く観られる。社内リソースが限られていることはわかるが、社外リソースの活用など方策はあるはずで、そこに目を向けられていないことが課題。あるいはそもそも、できていないことが自覚されていないということが課題。

### 【松永 守央 構成員】

- 人材教育に今までにないレベルで取り組まなければ、人は集まらない。企業も集まらない。

### 【松本 真理子 構成員】

- 女性の年齢階級別労働力率の M 字カーブ・女性の離職
  - ➔ 理由として、「仕事のやりがいを追求するより子どもや家庭のために生きる女性」のほうが社会的に評価される日本人の価値観が影響していると考え。両方の層に働きかける対策が必要。

#### 【対策】

- ・ 職場のジェンダー差別をなくす（「一般職は女性に」などの慣習の見直し）
- ・ 両立支援（育休・産休・柔軟な働き方）
- ・ 働き方の自由化：複数の異なる仕事を持てる・常勤でなくても社会保険が保証される・常勤とパートの格差をなくす
- キャリア教育に起業教育を
- 都心部に転出しても、キャリアアップ・結婚後に子育てをしに戻ってくる価値のある街へ。（保育・教育の質・選択の幅が保証され、仕事の受け皿があれば、子育ての場として魅力の高い街となる）

### 【三谷 康範 構成員】

- 若者や女性が定着する産業構造を目指すためには若い世代が北九州で何かを始めたいとの思いが生じるような仕掛けが必要で、他の都市にはないワクワク感を如何に醸成できるかが重要。若い世代をうまく使ってスタートアップを起こすなどして街づくりを推進し、その発想の中で必要になる規制緩和特区を順次実現していくような発想が必要。大学は若い世代を他の都市から呼び込んでいるので、彼らが興味を持って物事に取り組める環境づくりを行えば、彼らが定着する可能性が増えるし、一旦出ていったとしても将来帰ってきてくれる可能性が増える。
- 女性や高齢者が容易に社会（再）参加できるようリカレント事業の構築。

### 【宮坂 春花 構成員】

<若者（29 歳以下として考えた場合）>

- 他地域から来た学生は将来北九州市内の企業で就職をするという選択肢が少ないため、接点を持っていない。接点があったとしても、企業の学生へのグリップが弱い。

<女性（20～30 代女性として考えた場合）>

- 比較的都内に比べ、結婚したら仕事をやめるという価値観がまだ根付いている。（親世代の影響もあると思う）
- 北九州市で女性が稼げるイメージが少ないので、旦那さんに頼る姿勢がある
- フリーランスレベルでもいいので在宅で仕事ができる IT スキルを学ぶ機会の創出と仕事の提供が必要。
- 女性でも在宅でも子育てしながら働けるというロールモデルが必要

### 【柳井 雅人 構成員】

- 情報、サービス系企業の誘致と就職先のミスマッチ解消
- シビックプライドの醸成
- スタートアップの助成
- 子育て支援